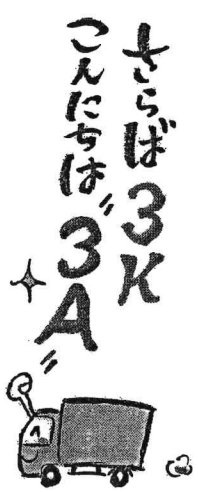
〝健康意識〟を高めよう！

OCHIS「運輸ヘルスケアナビシステム」

年齢重ねるほど注意を

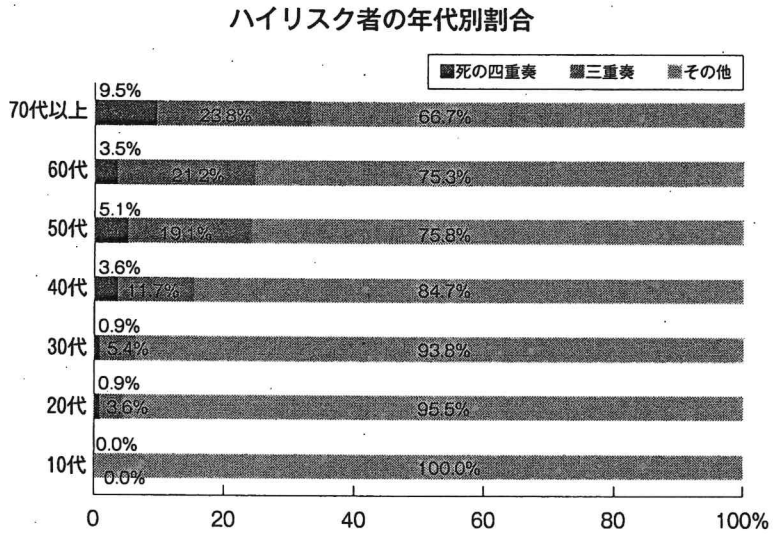


事務職よりもドライバー職で、高齢になるに連れ健康リスクが高まる――。ヘルスケアネットワーク（＝OCHIS、武田裕理事長）が、ドライバーの定期健康診断の事後フォローを支援する「運輸ヘルスケアナビシステム」のデータを分析した結果だ。作本貞子副理事長は「健康起因事故は防止できる事故。システムの利用で健康意識を高めてほしい」と話す。

同システムはドライバーの定期健診の結果を分かりやすく見える化するもの。肥満、高血圧、脂質異常、高血糖といった「死の四重奏」に該当する場合、すぐに見分けられるよう、工夫しているのが特長だ。全日本トラック協会の委託事業として2018年度から本格運用が始まり、各社の利用が着実に広がっている。

50代4人に1人ハイリスク

OCHISはこのほど、17年度の実証実験と18年度の本格運用で得られたデータをまとめた。死の四重奏のうち3つ以上の項目で基準値以上だった「ハイリスク者」の割合が、年齢を重ねるに連れ高まることが浮き彫りとなった。対象はトラック企業43社3844人で、ドライバーは2349人と全体の61・1%を占める。



ハイリスク者の割合は、ドライバー職では全体の17・2%だった半面、非ドライバーは13・2%にとどまった。要因では栄養分が偏った食事、間食の摂取、不規則な生活リズムなど「ドライバーの労働形態の特徴が表れているのでは」（作本副理事長）。

またドライバーの中で年代別のハイリスク者の割合は、10代は0%と最も低く、20代4・5%、30代6・3%の順。40代では15・3%と一気に上昇。さらに50代では24・2%、60代は24・7%だった＝グラフ。

社員への指導が着実に浸透

2カ年にわたって同システムを利用した19社と1125人を対象にアンケートも実施した。

会社側では社内の意識に変化があったと12社が回答。「従業員に対する健康指導意識が向上」「再診者が増えた」「健康状態が仕事に直結する自覚が生まれた」と具体的な報告があった。

ドライバー側に対し、健康状態の改善、向上の取り組みを聞いた。「禁煙、本数減、電子タバコに変更」179人、「必要な指導を受けた」「食生活の教育を受けて改善した」各174人、「極端な飲酒を慎む」172人（それぞれ複数回答）。作本副理事長は「会社、ドライバーの健康意識の改革が一歩ずつ進んでいる」と手応えを感じる。

全ト協は今年度、助成の対象を前年度比2500人増やして7500人まで拡充した。同時に、全国20カ所のトラック協会でセミナーを開催し利用を促進に努めている。

（遠藤　仁志）